

日経センター連続セミナー
グローバル化時代の
国際経済学入門：第7, 8回

2005年7月22日

一橋大学経済研究所・RIETI

深尾京司

k.fukao@srv.cc.hit-u.ac.jp

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/fukao/>

1. 国際経済体制

1.1 通貨制度を中心とした国際経済体制の簡単な歴史

1870～1914: 金(・為替)本位制時代・Pax Britanica)

金平価を設定・兌換に応じる

通貨当局のハイパワードマネー供給と金(および為替)保有量をリンク

物価・正貨流出入の原理(Adjustmentのメカニズム)

経常収支赤字 通貨安 金流出 貨幣供給減少 物価下落

経常収支均衡へ

長く苦しい調整 金本位制の桎梏

実際のAdjustment

赤字 金融引き締め 成長減速、資本流入

当時は
Liquidityがしばしば不足 しかしインフレはあまり無し(金・為替本位制が一つの対策)

国際貸借は活発

新大陸への証券投資を通じた資本移動(鉄道建設等)

植民地への直接投資

債権は海軍力で保全 エジプト、中国は関税収入を押さえられる

第一次大戦後の混乱

金本位制復活に伴う混乱

第一次大戦後黒字国フランスは金を溜め込んだ

黒字国米国は大恐慌後貸さなくなる

通貨切り下げ競争 通貨の交換性しばしば維持されず

関税引き上げ 経済ブロック圏形成

第二次大戦後～1971年8月 (Pax Americana)

GATT体制 (1947年協定調印)

自由な貿易の促進・貿易紛争の処理

基本原則

最恵国待遇原則 (MFN)

関税化 (数量制限の廃止)

関税引き下げ交渉

関税引き下げのゲームのルール

ブレトンウッズ体制 (1944年協定締結)

旧IMF制度

アジャスタブル・ペッグ制 (基礎的不均衡に陥った国のみ切り下げを認める)

経常取引に関する通貨の交換性維持 (日本は1964年に14条国から8条国へ移行)

通貨の交換義務: 外国の通貨当局が持つ自国通貨を相手国通貨か金で交換する義務

融資制度とSDR: 出資額 (quota) とアメリカの拒否権、IMF融資

固定レート制下のゲームのルール

世銀グループ (インフラ投資を中心に国際貸借を促進)

南北問題を除き非常な成功を収めた

ただし予想外の展開も

・IMF・世銀融資は小額 米国援助が中心 ドル不足の時代 ほとんどの国が60年代まで14条国

・基軸通貨が生じた

ドルの強さ: 価値基準としての安定性・為替制限無し・貿易投資シェア大・効率的で自由な資本市場

・投機の嵐 one-way option Confidenceの問題

・Pegの改定はあまり行われず

切り下げは政治的失敗と見なされる

切り上げは輸出産業が抵抗

旧IMF体制の崩壊(ニクソンショック スミソニアン体制 変動レート制)

米国国際収支赤字化の趨勢 競争力低下、対外FDI、世界の銀行

米国は切り下げに同意せず 金融引き締めせず 通貨交換に応じず

流動性ディレンマ論 Liquidityの供与とConfidence問題

1.2 WTOとFTA

GATTから世界貿易機構(WTO)へ(1995年発足)

法人格を備えた国際機構

強力な紛争解決能力

サービス貿易に関する一般協定(GATS)

マーケットアクセス・内国民待遇

ドーハラウンド(開発アジェンダ、2001年～)の停滞

関税同盟と自由貿易協定(FTA)、経済協力協定(EPA)

GATT24条の規定

貿易創出効果と貿易転換効果

原産地規則

日本・シンガポール 日本・メキシコ

マレーシア、フィリピンと大筋合意を確認

タイ、韓国とも交渉中

NAFTA

その他の貿易関連問題

非関税障壁

Fukao他

How to Measure Non-tariff Barriers?

A Critical Examination of the Price-Differential Approach

RIETI Discussion Paper Series 04-E-015

アンチダンピング政策

OECD(1961年発足) 任務の一つは直接投資・サービス貿易における障壁の除去 日本は1964年に加盟

1.3. 変動レート制の時代

当初の不安と期待

不安

- ・金融政策の節度が失われる No
- ・ダーティー・フロート No? しかし 最近の日本?
- ・為替レート変動による貿易阻害? ユーロの成功?
- ・投機の嵐 先進国ではあまり起きない 変動性は贅沢品?

期待

- ・雇用隔離効果 No
- ・インフレ隔離効果 Yes
- ・国際収支問題からの開放
通貨調整・資本市場発達の面ではYes
通貨のMisalignmentは続き保護主義の引き金に(ファンダメンタルズに問題あり?)

その他の展開

- ・金は廃位 ドルは衰えず
- ・国際間接・直接資本移動の活発化
- ・累積債務問題(ソブリン・デフォルト問題)と途上国向け銀行融資の縮小
- ・新しいタイプの通貨危機(資本移動を自由化した途上国がファンダメンタルズはそれほど悪くないのに投機の嵐に見舞われる、コンテイジョン問題)
 コーナー解への移行?
- ・欧州通貨統合 基軸通貨としてのユーロ 金融政策の独立性放棄
- ・途上国によるドルペッグやバスケットペッグ n-1問題